

特 251

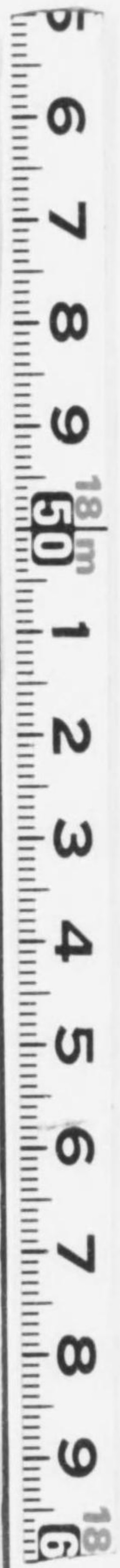
9

345

10

奈良縣下皇陵巡拜之栞

奈良縣立添上農學校

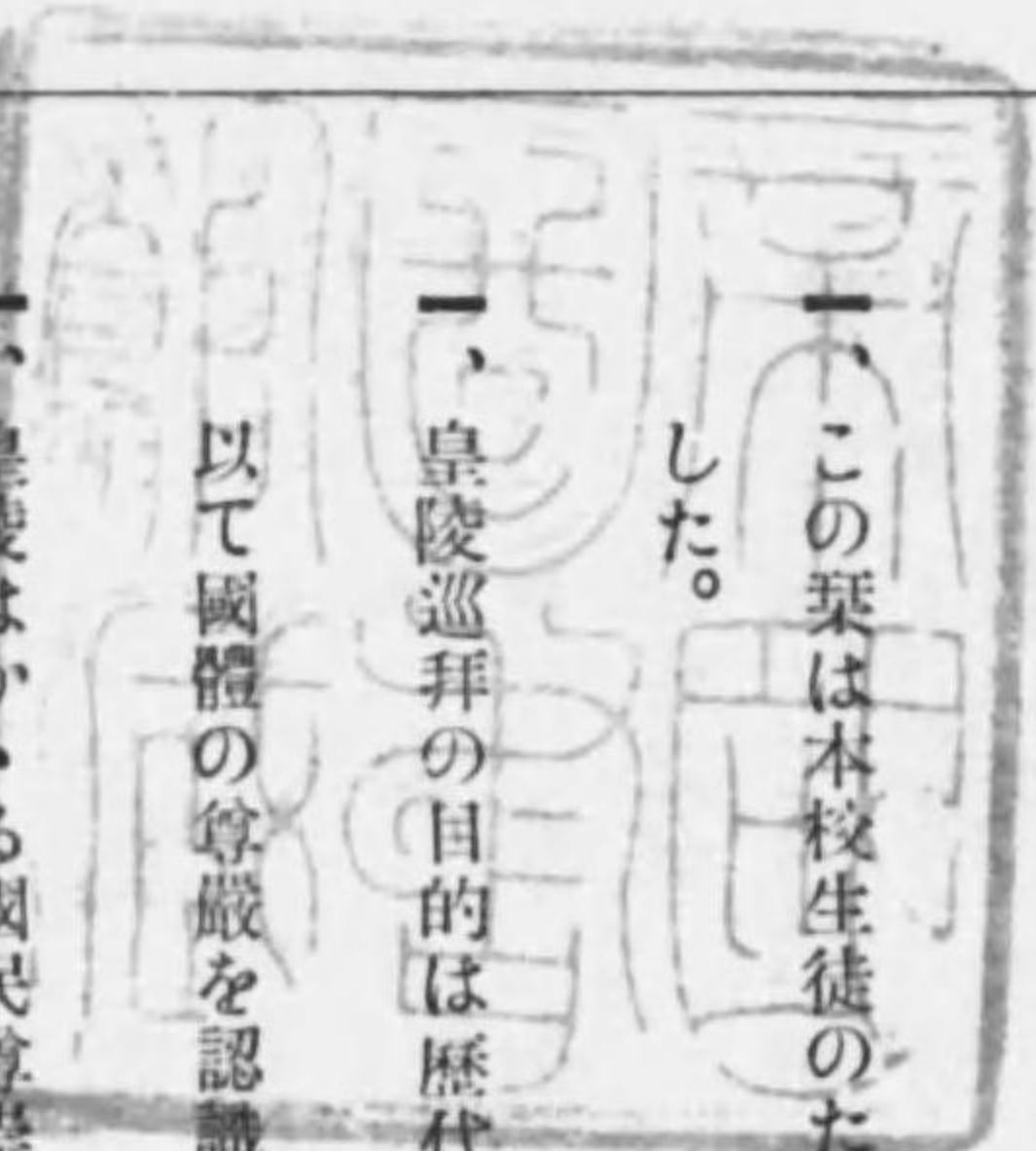


始





凡  
例

- 
- 一、この葉は本校生徒のために奈良縣下の皇陵巡拜の便を圖り、簡明を主として編纂した。
  - 一、皇陵巡拜の目的は歴代天皇の御聖徳を偲び奉り、臣民として報本反始の誠を盡し以て國體の尊嚴を認識せんがためである。
  - 一、皇陵はかゝる國民尊崇の靈域たるがゆゑに、之が巡拜にあつては敬虔を旨とし、苟も不敬にわたるが如き言行があつてはならぬ。





目次

凡例

學年別巡拜之部

(一) 奈良附近	一
(二) 畝傍附近	七
(三) 柳本及櫻井附近	一
(四) 西大寺附近	一六
(五) 岡寺附近	二一
全學年巡拜之部	
(一) 田原及帶解附近	二五
(二) 王寺及下田附近	二七
(三) 吉野山附近	二九
(四) 御所及壺阪附近	三三
備考	三八



學年別巡拜之部

(一) 奈良附近

——第一學年——

第九代 開化天皇 春日率川阪上陵

御所在地 奈良市油阪町  
陵形 前方後圓

天皇御名は稚倭根子彥太日日尊、孝元天皇の第二皇子。都は春日率川宮（奈良市小守町）。御在位六十年。寶算百十五。

〔奈良附近〕



〔奈良附近〕

第四十五代 聖武天皇 佐保山南陵

御所在地 奈良市法蓮町  
陵形 山形

天皇御名は首、文武天皇の第一皇子。

天皇は篤く佛教を信ぜられ、之によつて國家を治めようとの思召から天平十三年國毎に國分寺、國分尼寺を建てられ、而して總國分寺たる東大寺には金銅の大佛を鑄させて天下の太平・萬民の幸福を祈らしめられた。かくて佛教は未曾有の隆盛を極め、行基の如き名僧も出た。佛教の興隆につれて美術工藝の發達も亦目ざましく、建築・彫刻・繪畫・工藝等何れも精巧美麗を極め、美術史上特に天平時代と呼ばれてゐる。此れ等の美術工藝品は今なほ正倉院や帝室博物館や三月堂等に遺つてゐる。

支那との交通によつて漢學も大いに開けて阿倍仲麻呂、吉備眞備等の學者が出た。和歌では山上憶良、大伴旅人等の名人が出て萬葉集の最盛期を現出した。風俗も亦華やかになり、衣服が袖長く裾長くなり、家屋が瓦葺になり、柱に彩色するやうになつたのもこの時代からである。その他陸奥に鎮守府將軍を置かれたのも、勃海國（現在の沿海州東滿洲地方）が朝貢したのも此の御代のこゝ

である。

之を要するに天皇の御代は佛教・美術工藝・學問・文學・風俗等あらゆる方面に於て奈良朝の黄金時代であつた。時の歌人小野老が

あをによし寧樂の都は咲く花の匂ふが如く今さかりなり（萬葉集）  
こ詠んだのもさこそ背かれる。

御在位二十六年。天平勝寶八年崩御。寶算五十六。

光明皇后 佐保山東陵

御所在地 奈良市法蓮町  
陵形 山形

聖武天皇の皇后、御名は安宿媛、藤原不比等の第三女、孝謙天皇の御母にあらせられる。皇后も亦篤く佛教を信ぜられ、施藥院を設けて貧しい病人を救ひ、悲田院を起して孤兒を養はれる等慈善事業に御心を注がせられた。天平寶字四年崩御、御年六十。

〔奈良附近〕



聖武天皇皇太子 那富山墓

御所在地 奈良市法蓮町  
墓形 圓墳

第四十三代 元明天皇 奈保山東陵

御所在地 奈良市奈良坂町  
陵形 山形

天皇御名は阿閉、天智天皇の御四皇女、草壁皇太子（天武天皇皇子）の妃、文武・元正兩天皇の御母にあらせられる。

文武天皇崩后慶雲四年御即位。翌年武藏國より始めて和銅を獻じてから、和銅を改元し、和銅開珎といふ銅錢を鑄造せしめられた。同三年都を藤原宮より平城宮（奈良）に遷させられた。新都是唐の都城に倣つて、大内裏を北に置き左右兩京・條・坊等正しく配置され頗る壯麗であつた。之より光仁天皇に至る迄七代七十餘年間の帝都となつた。

同五年太安麻呂に命じ稗田阿禮の誦讀してゐる所によつて古事記（神代——推古）を作らしめら

れた。又諸國に命じて古傳説・物産・地勢等を記した風土記をも奉らしめられた。この二書は我國の歴史及び地誌の最古のものとして尊い。特に古事記は我國體の源を知るべき最も大切な書物である。

その他大赦を行ひ、高齢者をあはれみ、孝子節婦を表彰せらるゝ、等御仁政甚だ多かつた。御在位七年、御位を皇女元正天皇に譲られた。養老五年崩御、寶算六十一。

第四十四代 元正天皇 佐保山西陵

御所在地 奈良市奈良坂町  
陵形 山形

天皇御名は氷高、岡宮帝（草壁皇太子）の皇長女、御母は元明天皇。

靈龜元年御即位。後三年美濃の孝子の話により養老を改元された。養老四年舍人親王と太安麻呂に命じ漢文を以て日本書紀（神代——持統）を作らしめられた。書紀は先代の古事記と共に我國上古の貴重な歴史書である。又衣服の制を改めて従來の左衽を右衽に改められた。御在位九年、御位を聖武天皇に譲らせられた。天平二十年崩御、寶算六十九。



〔奈良附近〕

應神天皇皇子大山守命 那羅山墓

御所在地 奈良市法蓮町  
墓形 圓墳

仁德天皇皇后 平城坂上陵

御所在地 生駒郡都跡村大字佐紀  
陵形 前方後圓

皇后御名は磐之媛命、履仲、反正、允恭 三天皇の御母にあらせられる。

(二) 畝傍附近

——第二學年——

第二代 綏靖天皇 桃花鳥田丘上陵

御所在地 高市郡畝傍町大字四條  
陵形 圓墳

天皇御名は神渟名川耳尊、神武天皇の第五皇子。都を葛城高丘宮(南葛城郡吐田郷村)に遷された。御在位三十三年、寶算八十四。

第一代 神武天皇 畝傍山東北陵

御所在地 高市郡畝傍町大字洞  
陵形 圓墳

天皇御名は神日本磐余彥尊、鷓鴣草葺不合尊の第四皇子。初め日向にをられたが、皇祖の御神勅を畏み大業を恢弘し天下に光宅せんと思召し、皇族の方々

〔畝傍附近〕



こ舟師を率ゐて高千穂を發し、瀬戸内海を経て浪速に到り、進んで大和に入らうさせられた。時に大和には長髓彦オガスネヒコといふ者があつて、饒速日命ニギハヤヒノミコを奉じて勢強く皇軍を惱ました。天皇は路を轉じて海路紀伊に向ひ熊野に上陸された。更に山道を踏分け大和に入り、再び長髓彦をお討ちになつた。やがて饒速日命は長髓彦を誅して歸順せられ、附近の賊も相ついで降つたから大和の地は全く平定した。

かくて天皇は畝傍山の東南樞原（現在の樞原神宮の地）に宮を建て、御即位の禮を擧げ我國家の基を定めせられた。この年は實に我國の紀元元年であり、この日は乃ち紀元節である。ついで天皇は鳥見山トリミに天神地祇を祭り、功臣を封じ、國造・縣主アガタスレを置いて地方の政を行はしめられた。この頃は神殿即ち皇居で祭祀は政治の最も主な事であつた。之を祭政一致サイサイといふ。御在位七十六年、寶算百二十七。

天皇御製（古事記）

みつみつし 久米の子等が 垣下に 植ゑし 葦アシ 口疼クチシズメく 我は忘れじ 撃ちてし止まむ

明治天皇御製

樞原の遠つ御祖ミオヤの宮柱たてそめしより國は動かす

第三代 安寧天皇 畝傍山西南御陰井上陵

御所在地 高市郡畝傍町大字吉田  
陵形 山形

天皇御名は磯城津彦玉手看命イソキツヒコタマテミタミ、綏靖天皇の皇太子。都は片塩カタシホ、浮穴宮ウケアナノミヤ（同郡白樞村、一説北葛城郡浮孔村）。御在位三十八年、寶算五十七。

第四代 懿德天皇 畝傍山南織沙溪上陵

御所在地 高市郡畝傍町大字池尻  
陵形 山形

天皇御名は大日本彦耜オホオマト和尊ニギハヤヒノミコ、安寧天皇の第二皇子。都は輕曲峽宮カサノマカサツ（同郡白樞村）御在位三十四年、寶算七十七。

第二十八代 宣化天皇 同皇后橘仲姬皇女身狭桃花鳥坂上陵（合葬）

御所在地 高市郡畝傍町大字鳥屋  
陵形 前方後圓



天皇御名は武小廣國押盾尊、繼體天皇の第二皇子。安閑天皇の御弟。都を檜隈盧入野宮（同郡阪合村）に遷された。この御代に新羅が我屬國任那を犯したので大伴狹手彦をして救はしめられた。三韓が多事になったのもこの時からである。御在位四年、寶算七十三。

崇神天皇皇子倭彥命 身狹桃花鳥坂墓

御所在地 高市郡新澤村大字北越智

墓形 山形

（三） 柳本及櫻井附近

—— 第三學年 ——

繼體天皇皇后 衾田陵

御所在地 山邊郡朝和村大字中山

陵形 前方後圓

皇后御名は手白香皇女、仁賢天皇の第三皇女、欽明天皇の御母にあらせられる。

第十代 崇神天皇 山邊道勾岡上陵

御所在地 磯城郡柳本町字行燈

陵形 前方後圓

天皇御名は御間城入彥五十瓊殖尊、開化天皇の第二皇子。磯城瑞籬宮（同郡三輪町）に都された。

天皇は敬神の御心深く、三種の神器を同殿にゐらせられるのは恐れ多いと思召され、新たに鏡・劍を模造し勾玉と共に宮中に安んじて皇位の御しるしとし、八咫鏡を叢雲劍を大和の笠縫邑に遷し



奉り、皇女豊鍬入姫命をして之に奉仕せしめられた。(後世の齋宮の始めである)又この頃迄は皇威の及ぶ所は畿内附近に限られてゐたから、天皇は皇族の方々を北陸・東海・山陽・山陰に遣はされて四方を開拓し皇化を布かれた。世に之を四道將軍といふ。その他諸國に命じて船舶を造らしめて交通運輸を便にし、池溝を掘らしめて農業をすゝめ、人口を調べて租税を賦課し、男には弓弭調、女には手末調を奉らしめられた。

かく天皇の御代は御事蹟頗る顯著で、後世尊んで御肇國天皇と申上ける。御在位六十八年、寶算百十九。なほ本陵は陵墓の形式整つてからの最初の陵で、結構古く規模亦大である。

### 第十二代 景行天皇 山邊道上陵

御所在地 磯城郡柳本町大字澁谷  
陵形 前方後圓

天皇御名は大足彦忍代別尊、垂仁天皇の第三皇子、纏向日代宮(同郡纏向村)に都された。崇神天皇の四道將軍御派遣によつて擴張された皇威は、景行天皇に至つて更に一段の發展を遂げ

た。この御代に熊襲が叛いたので、天皇は親しく軍を率ゐ九州に下られて八年に亘り豊前日向等を平定された。然るに間もなく熊襲は再び叛いたので皇子日本武尊をして征討せしめられた。後又尊を遣はして東方の蝦夷を討たしめられた。(詳細は三四頁日本武尊白鳥陵の條參照)尊薨去の後、天皇は親しく東國を巡狩された。かくて東西の邊境漸く靜穩に歸し、皇化は普く國內に行き亘るこゝとなつた。御在位六十年、寶算百四十三。

### 天皇御製(琴歌譜)

そらみつ 大和の國は 神がらか 有りが欲しき 國がらか 住みが欲しき 有りが欲しき國  
は 明つ島大和

### 孝靈天皇皇女倭迹々日百襲姫命墓

御所在地 磯城郡織田村大字箸中  
墓形 前方後圓



〔柳本及櫻井附近〕

第三十二代 崇峻天皇 倉梯岡上陵

御所在地 磯城郡多武峯村大字倉橋  
陵形 圓形

天皇御名は泊瀬部、欽明天皇の第十二皇子。都は倉梯柴垣宮（陵ニ同所）。御在位五年、寶算七十三。

第三十四代 舒明天皇 押坂内陵 合葬

田村皇女（舒明天皇御母）墓

御所在地 磯城郡城島村字忍阪  
陵形 上圓下方

天皇御名は田村、押阪彦人大兄皇子の皇長子。天皇は犬上御田歙を遣はして唐ニ交通を開かしめられた。之遣唐使の初めて、以後支那文化は從來の如く三韓を経ずして直ちに我國に入るやうになつた。都は飛鳥岡本宮（高市郡飛鳥村）田中宮（同郡畝傍町）厩坂宮（同上）ニ遷された。御在位十三年、寶算四十九。

天皇御製（萬葉集）

夕されば小倉の山に鳴く鹿は今夜は鳴かずいねにけらしも

欽明天皇皇女大伴皇女押坂内墓

御所在地 前陵の東方  
墓形 圓墳

鏡女王忍坂墓

御所在地 前陵墓の南方  
墓形 圓塚

〔柳本及櫻井附近〕



(四) 西大寺附近

— 第四學年 —

第五十一代 平城天皇 楊梅陵

御所在地 生駒郡都跡村大字佐紀  
陵形 圓墳

天皇御名は安殿、桓武天皇の第一皇子。御在位四年、皇弟嵯峨天皇に御讓位。天長元年平城宮に崩御、寶算五十一。

第四十六代 孝謙天皇 高野陵  
第四十八代 稱徳天皇

御所在地 生駒郡平城村大字山陵  
陵形 山形

天皇御名は阿閉、聖武天皇の第一皇女。重祚された。

この兩朝は奈良時代の爛熟頽廢期で綱紀のゆるんだ時であり、惠美押勝、僧道鏡が寵に押れて横暴

を極めた。特に道鏡の借上は甚だしく、太政大臣禪師となり法王を授けられ、剩つさへ恐くも天位を希んだ。幸にして忠臣和氣清麻呂あり、宇佐八幡宮の神教を受けて『我國は開闢以來君臣の分定まれり。天日嗣は必ず皇緒を立てよ。無道の者は速かに除くべし』と奏上し、尊嚴無比の國體を擁護し奉つた。御在位前朝十年、後朝五年、神護景雲四年崩御、寶算五十三。

垂仁天皇皇后 狹木寺間陵

御所在地 生駒郡平城村大字山陵  
陵形 前方後圓

皇后御名は日葉酸媛命、丹波道主命の第五女。景行天皇の御母にあらせられる。

第十三代 成務天皇 狹城盾列池後陵

御所在地 生駒郡平城村大字山陵  
陵形 前方後圓

天皇御名は稚足彦命、景行天皇の第四皇子。都は志賀高穴穗宮(近江國滋賀郡阪本村)。景行天皇の御經略の後をうけて地方政治を整へられた。乃ち山河の形勢によつて國・縣を分ち國・造・



縣主をおき村には稻置をおいて皇威を四方に及ぼされた。又かの武内宿禰が大臣となつたのもこの御代の事である。御在位六十年、寶算百七。

### 神功皇后 狹城盾列池上陵

御所在地 生駒郡平城村大字山陵  
陵形 圓墳

仲哀天皇の皇后、御名は息氣長足媛命、氣長宿禰王の御子。

仲哀天皇の御代熊襲が又叛いたので、天皇は皇后と共に九州に親征されたが陣中に崩御された。そこで皇后は熊襲の叛服常無きは新羅の後援あるためであるを察せられ、大臣武内宿禰を圍り、畏くも御懷妊の御身を以て海を渡り新羅を御征伐になつた。新羅王は大いに恐れ永く朝貢を怠らない旨を誓つた。この後熊襲は又叛かず、百濟も高麗も朝貢したから朝鮮は概ね我屬國となつた。皇后は御凱旋の後應神天皇を生み奉り、六十餘年の間政を攝せられた。後世その御偉業を仰ぎ神功皇后と稱し奉る。御年一百にて崩御。

### 第十一代 垂仁天皇 菅原伏見東陵

御所在地 生駒郡跡村大字尼ヶ辻  
陵形 前方後圓

天皇御名は活目入彦五十狹茅尊、崇神天皇の第三皇子、纏向珠城宮（磯城郡纏向村）に都された。天皇敬神の御心深く、先帝崇神天皇が笠縫邑に奉還された鏡と劍を更に伊勢國五十鈴川の邊に奉祀して、皇女倭姫命をして奉仕せしめられた。之即ち皇大神宮（内宮）である。又民政にも御心を注がれ、池溝を開いて農業をすゝめ、殉死を禁じ野見宿禰の意見によつて埴輪を以て之に代へしめられた。大伽羅（朝鮮半島の最南）が朝貢して任那國號を賜うたのもこの朝である。御在位九年、寶算百四十。

なほ本陵の堀にある小碑は天皇の寵臣田道間守の墓である。間守は勅命を奉じ非時香果（橘の類）を常世國（南洋？）に求めて歸つたが、天皇既に崩御の後だったので號泣して陵前に死んだといふ哀話が傳へられてゐる。



〔西大寺附近〕

第二十代 安康天皇 菅原伏見西陵

御所在地 生駒郡伏見村大字寶來  
陵形 山形

天皇御名は穴穗命。允恭天皇の第三皇子、石上穴穗宮（山邊郡丹波市町）に都された。  
御在位三年、寶算五十六。

(五) 岡寺附近

—— 第五學年 ——

第八代 孝元天皇 劔池嶋上陵

御所在地 高市郡敵傍町大字石川  
陵形 前方後圓

天皇御名は大日本根子彦國牽尊、孝靈天皇の第一皇子。輕境原宮（同郡白樺村）に都された。  
御在位五十七年、寶算百十六。

第二十九代 欽明天皇 檜隈坂合陵

御所在地 高市郡阪合村大字平田  
陵形 前方後圓

天皇御名は天國排開廣庭尊、繼體天皇の皇太子、磯城島金刺宮（磯城郡三輪町）に都された。  
天皇の十三年（皇紀一二二二）百濟王は佛像・經論を獻じその功德を奏聞した。これ佛教渡來の

〔岡寺附近〕



最初である。この時佛像禮拜についての可否の論が大いに起り、大臣蘇我稻目は拜すべしとなし、大連物部尾輿は異國の神は拜すべからずと主張した。

天皇は試みに稻目に佛像を賜うて禮拜せしめられた。稻目は悦んで寺を造り崇んだが疫病流行した。尾輿は神の怒なりと奏して寺を焼き佛を棄てた。是より蘇我・物部兩氏の長期間に亘る凄惨な氏族抗争が開始されるのである。又朝鮮も頗る多事で新羅は百濟を侵してその王を殺し、任那を攻めて日本府を亡ぼした。其の後我國の努力にも拘らず遂に日本府恢復の業は成らず、半島に於ける我地位は失墜の止む無きに至つた。御在位三十二年、寶算六十三。

### 吉備姫王 檜隈墓

御所在地 前陵の南西  
墓形 圓墳

欽明天皇の皇孫女、敏達天皇皇孫茅渟王の妃、皇極・孝德兩天皇の御母にあらせられる。

### 第四十代 天武天皇 第四十一代 統持天皇 檜隈大内陵（合葬）

御所在地 高市郡高市村大字野口  
陵形 圓墳

天武天皇 御名は大海人、舒明天皇の第二皇子、天智天皇の御弟。飛鳥淨御原宮（同郡飛鳥村）に都された。天皇資性英邁にましまし、爵位を改正し地方政治を巡察し軍備を整へ佛教を興し文學を奨励する等御施政甚だ多かつた。御在位十四年、朱鳥元年崩御、寶算六十六。

### 天皇御製（萬葉集）

淑人のよしとよく見てよしと言ひし芳野よく見よよき人よく見つ

\*

持統天皇 御名は鸕野、天智天皇の第二皇女、天武天皇の皇后。先帝崩御の後御即位、都を藤原宮（同郡鴨公村）に遷され、よく前緒を繼承して天下を統治された。御在位十一年、御位を文武天皇に譲り太上天皇と稱せられた。太寶二年崩御、寶算五十八。

### 天皇御製（萬葉集）

春過ぎて夏來るらし白妙の衣ほしたり天の香具山

〔岡寺附近〕



〔岡寺附近〕

第四十二代 文武天皇 檜隈安古岡上陵

御所在地 高市郡阪合村大字栗原  
陵形 山形

天皇御名は輕、天武・持統兩天皇の皇孫、草壁皇子（岡宮天皇）の第二皇子、御母は元明天皇。先に天智天皇の大化改新の制度は天武・持統兩朝の修正を経たが、天皇は更に忍壁親王と藤原不比等に命じて増補せしめられ、大寶元年に完成を見た。之を大寶律令といひ永く我國政治の大本となつたものである。その他老者を賑恤し大赦を施き租税を免ぜらるゝ等御仁政も多かつた。都は前朝より引續き藤原宮で、歌聖柿本人麿の出したのもこの御代である。御在位十一年、慶雲四年崩御、寶算二十五。



全學年巡拜之部

(一) 田原及帶解附近

第四十九代 光仁天皇 田原東陵

御所在地 添上郡田原村大字日笠  
陵形 圓墳

天皇御名は白壁、春日宮天皇（施基親王）の第六皇子。奈良朝の最後の天皇であらせられる。先帝（稱徳）の崩後藤原百川等相圖り御位に即け奉つた。天皇資性寛容見識英邁にして深く神祇を敬ひ給ひ、妖僧道鏡を貶し和氣清麻呂を召還して重用せられ、又御仁慈の心厚く孝子節婦を表彰し始めて天長節の賀を設けられる等御事蹟頗る多かつた。爲に御在位十二年間紀綱肅然として前代の弊を一掃した。天應元年崩御、寶算七十三。

〔田原及帶解附近〕



〔田原及帶解附近〕

春日宮天皇 田原西陵

御所在地 添上郡田原村大字矢田原  
陵形 圓墳

天智天皇の皇子施基親王にして、光仁天皇の御父にあらせられる。靈龜二年崩御。光仁天皇御即位の後、春日宮天皇に御追諡あらせられた。

崇道天皇 八島陵

御所在地 添上郡東市村大字八島  
陵形 圓墳

早良親王に申し奉り、光仁天皇の皇子にあらせられる。御兄桓武天皇の皇太子にあられた。薨去の後、崇道天皇に追諡し奉った。

(二) 王寺及下田附近

第七代 孝靈天皇 片丘馬坂陵

御所在地 北葛城郡王寺町大字王寺  
陵形 山形

天皇御名は大日本根古彦太瓊命、孝安天皇の第一皇子。都は黒田廬戸宮（磯城郡都村）。天皇は夙に皇威の發展を圖られ、皇子を遣はして吉備（山陽）の地を經略された。なほ大倭根子の御名は天皇に始まり、後遂に歷代天皇の御通稱はなつた。御在位七十六年、寶算百二十八。

第二十五代 武烈天皇 傍丘磐坏丘北陵

御所在地 北葛城郡志津美村大字今泉  
陵形 山形

天皇御名は小泊瀬稚鷯鷯尊、仁賢天皇の第一皇子。御在位九年、泊瀬列城宮（磯城郡初瀬町）に崩御、寶算五十七。

〔王寺及下田附近〕



〔王寺及下田附近〕

三六

### 第二十三代 顯宗天皇 傍丘磐坏丘南陵

御所在地 北葛城郡下田村大字北今市  
陵形 前方後圓

天皇は履中天皇の御孫、磐坂市邊押磐皇子の第二子。弘計王ヲケと稱し奉る。

事情あつて御兄億計王オウケと共に難を丹波に避け、後長くも播磨國の忍海部細目の家僕オウケなられた。困苦忍従畏くも數年、播磨國司來目部小楯細目の家に宿つた時歌舞をなして御身分を顯はされた。小楯等恐懼して事由を清寧天皇に奏し奉つた。そこで迎へられて大和にお歸りになり、兄王は皇太子に弘計王は皇子になられた。清寧帝の崩後、兄皇太子の固辭により即位され、近飛鳥八鈞宮カチツ（磯城郡香久山村、一説に高市郡飛鳥村）にまして天下を治められた。

天皇は久しく民間に坐し、下情に通じてをられた爲、登極の後専ら御心を民政に留めさせられ、信賞必罰孤寡をあはれみ傭役を省く等善政甚だ多く、人民みな聖德に伏した。御在位三年、寶算三十八にて崩御。

### (三) 吉野山附近

#### 第九十六代 後醍醐天皇 塔尾陵

御所在地 吉野郡吉野町大字吉野山  
陵形 圓墳

天皇御名は尊治ウツル、後宇多天皇の第二皇子、正應元年御降誕、文保二年花園天皇の禪を享け即位された。

天皇は天資英明にましまし、執權北條高時の失政を御覽せられ政權を朝廷に恢復せんウツル企てられた。高時之を知り元弘元年兵を發して上京したから天皇は笠置山に行幸された。然し笠置は程なく陥り、天皇は翌年隱岐に遷幸された。是より先楠木正成は勅命を奉じて河内の赤坂城に義兵を擧げやがて金剛山に據つて北條氏の軍を破つた。護良親王・赤松則村・菊池武時等の勤王の諸將相呼應して起り、天皇も隱岐を出て伯耆の名和長年に頼り船上山に行幸された。この頃西上した北條氏の將足利高氏は途中から歸順し、六波羅を陥し京都を平定した。新田義貞も上野に擧兵して鎌倉を陥し北條氏を亡ぼした。

〔吉野山附近〕

二九



天皇は元弘三年京都に還幸あそばされ、萬機の政を御親裁になつた。之を建武中興と云ふ。然し乍ら公武の不和・賞罰の不公平・租税の過重等の原因に依り、中興の業は早くも動搖した。乃ち足利高氏は武家政治の再興を企て護良親王を鎌倉に幽して弑し奉り、遂に天皇に叛くに至つた。ついで京都に攻上つた高氏は義貞・正成・顯家等に大敗して九州に走つたが再舉して東上した。延元元年五月湊河に賊を迎撃した正成は、血戦數十合七生討賊を誓つて戦死し、義貞は敗退した。天皇は比叡山に行幸せられ高氏は京都に入つた。

高氏は賊名を恐れて光明院を擁立して天皇と稱し、後醍醐天皇の還幸を請ひ奉つた。天皇は京都に還幸の後偽器を光明院に授けられ、同年十二月三種の神器を奉じて吉野に脱出された。之より五十七年の永きに亘り、歌書よりも軍書に悲しい吉野山の歴史が展開されるのである。先に越前金ヶ崎城を死守して北國經略に従つた義貞も時利あらず藤島に戦死し、又長驅陸奥より來攻した北畠顯家は轉戦の末和泉に敗死した。かく南風競はず官軍の諸將相ついで歿した時、延元四年八月天皇御病篤く義良親王(後村上天皇)に御位を譲られ『玉骨ハ縦令南山ノ苔ニ埋ルトモ、魂魄ハ常ニ北闕ノ天ヲ望マント思フ、若シ命ヲ背キ義ヲ輕ンゼバ、君モ繼體ノ君ニアラズ、臣モ忠烈ノ臣ニアラジ』と綸言を残され、左の御手に法華經五卷を持たせられ右の御手に御劍を按ぜられて崩御あそばされた。御在位二十一年、寶算五十二。御遺詔により陵は北向に築かれてゐる。

建武中興の大業は僅か二年にして破れたがその影響は甚大である。武家政治を打破して天皇親政といふ建國本來の相に返された天皇の大御心は、遙かに五百年の年處を超越して明治維新の源泉となつた。更に暴慢無道の逆賊に抗し一門の肝腦をあげて朝廷に捧げ奉つた幾多忠臣義士の事蹟は國史の華でなければならぬ。

### 天皇御製

世治まり民安かれと祈るこそわが身につきぬ思ひなりけれ

よしの山みさゝきちかくなりぬらんちりくる花もうちしめりつ、 (昭憲皇太后御歌)

御廟をしのを経て偲ぶは何を忍ぶ艸 (芭蕉)

萬人買醉芳叢 感慨誰能與我同

恨殺殘紅飛向北 延元陵上落花風 (賴杏坪)



〔吉野山附近〕

古陵、松柏吼ニ天ニ颯ニ 山寺尋スレ春スレ寂スレ寥

眉雪、老僧時ニ輟ス 落花深處ニ說ク南朝ヲ (藤井竹外)

山禽叫レ絶エ夜ヲ寥ス 無限、春風恨未ク銷ス

露臥延ス元陵下、月 滿身、花影夢ニ南朝ヲ (河野錢兜)

世泰親王墓

長慶天皇の皇子、御墓は御陵の側にある。

(四) 御所及壺阪附近

飯豊天皇 埴ハニ口丘陵

御所在地 北葛城郡新庄村大字北花内  
陵形 前方後圓

市邊押磐皇子の皇長女、仁賢・顯宗兩天皇の御姉(一説に市邊皇子の御妹こいふ)にあらせられる。清寧天皇崩じ、億計王・弘計王御謙讓して即位せられなかつた爲、天皇忍海飯豊青尊と稱し、忍海角刺宮(同郡忍海村)に政を聽かせられた。

第五代 孝昭天皇 掖ワキノ上博多山上陵

御所在地 南葛城郡三室村字博多山  
陵形 山形

天皇御名は御眞津日子訶惠志泥命、懿德天皇の第一皇子。都は掖上池心宮(同郡掖上村)。御在位八十三年、寶算百十四。

(御所及壺阪附近)



〔御所及壺阪附近〕

三四

### 第六代 孝安天皇 玉手丘上陵

御所在地 南葛城郡掖上村大字玉手  
陵形 山形

天皇御名は大倭オホヤマト帶日子國押人命、孝昭天皇の第二皇子。都は室秋津島宮（同郡秋津村）御在位百二年、寶算百三十七。

### 日本武尊 白鳥陵

御所在地 南葛城郡秋野村大字富田  
陵形 山形

尊は景行天皇の皇子、小碓尊コツツミと稱し奉る。御幼少より雄健にあらせられ、御年十六にして詔を承けて九州に赴き熊襲を征伐された。この時尊は單身敵地に入り、女装をなして賊西川上梟師オウシを討たれた。この時梟師より日本尊武命の尊稱を奉られた。

尊は御歸京後東の方蝦夷を討つべき勅命を蒙り、先づ伊勢の内宮に詣で、御叔母倭姫命から叢雲劍を受けられた。進んで駿河の焼津に入らせられた時、賊は野火を放つて尊を弑し奉らうとした。

尊は御劍を以て草を薙ぎ却つて賊を亡ぼされた。（これよりこの劍を草薙劍クサヒギといふ）相模より上總に渡る途走水にて暴風雨に遭はれたが、妃弟橘媛は海神に祈つて入水され尊は御無事であつた。更に常陸より陸奥に入つて蝦夷を平け、甲斐信濃を経て尾張に出で、又近江の膽吹山の賊を伐たれたが不幸御病にかゝられ、伊勢の能褒野ノホノに到つて薨ぜられた。御年三十。父帝之を悲まれて能褒野に葬られた。この時尊は白鳥シロトリに化し飛んで大和の琴彈原（富田の地）に至つたので此處に陵を築かれたが、白鳥更に飛んで河内の古市に止まつた。因つて此處にも陵を設けられた。故に白鳥の三陵ミツノシロトリノミナトと稱し奉る。なほかの草薙劍を奉祀したのが現在の熱田神宮なる事は申す迄もない。

### 尊御歌（古事記）

はしけやし 吾家ウケの方よ 雲居クモイ起ち來も

倭は 國のまほろば た、なづく 青垣山 隠れる 倭し美ウツクシはし

命の 全マクけむ人は 疊タテ菰 平群ヘグリの山の 隱カクレ白シロ檜ヒノが葉を 鬢ウヅ華ハに挿せ その子

〔御所及壺阪附近〕

三五



第三十五代 皇極天皇  
第三十七代 齊明天皇 越智岡上陵

孝德天皇皇后（人皇女陵）  
建王（皇極天皇皇孫、天智天皇皇子）墓 } 合葬

御所在地 高市郡越智岡村大字車木  
陵形 圓墳

皇極天皇 御名は寶、茅渟王の長女、舒明天皇の皇后にあらせられる。

舒明天皇崩後御即位。二年飛鳥板蓋宮（同郡高市村）に遷都された。此の御代に蘇我蝦夷・入鹿父子驕僭を極め、衣食住皆天子に模し、皇陵を模して父子の墓を築き、聖德太子の御子山背大兄王の勢望を忌み之を弑し奉る等暴慢を逞うした。是に於て中臣鎌足（藤原）、中大兄皇子（後の天智天皇）と結び之を除かんとした。偶々四年三韓の使者來朝し天皇宮中に之を引見さる、や、皇子等入鹿を誅し、更に兵を發して蝦夷の第を圍み自殺せしめた。蘇我氏の專横是に止んだ。天皇御在位四年にして孝德天皇に皇位を讓られた。

齊明天皇 孝德天皇崩後、皇極天皇重祚あらせられた。これ我國重祚の初で、齊明天皇と稱し奉

る。皇太子中大兄皇子攝政せられた。此の年飛鳥川原宮（同郡高市村）翌年後飛鳥岡本宮（同郡飛鳥村、或は高市村）に遷都された。四年阿部比羅夫舟師を率ゐて蝦夷、肅慎（沿海州？）を討ち翌年及び翌々年に亘り再征して國威を輝かした。天皇の晚年唐の國勢強く新羅と結び百濟を攻めた。百濟國人日本に援を求めた爲天皇難波宮に行幸、七年御老齡を以て筑紫の朝倉宮に入らせられ、未だ兵を發せずして崩御された。御在位七年、寶算六十八。

天智天皇皇女 太田皇女墓

御所在地 前陵の南方  
墓形 圓墳

岡宮天皇 眞弓丘陵

御所在地 高市郡越智岡村大字森  
陵形 圓墳

天武・持統兩天皇の皇子、草壁皇子と稱し奉る。父帝の十年皇太子となり、持統天皇三年崩御。寶算二十七。文武天皇の御父、皇后は元明天皇、皇女は元正天皇にあらせられる。文武天皇の時岡宮天皇の尊號を追諡せられた。



〔備考〕

### 備考

#### 一、陵と墓の區別

我皇室の御墳墓にはその御身分によつて陵と墓の區別がある。

陵……天皇、太皇太后、皇太后、皇后。

天皇、太上天皇の尊號を奉られし皇族。

墓……その他の皇族。

#### 二、陵墓の種類及形狀

圓墳形……平地又は山上に圓く築き上げたもの。  
山形……天然の山上に葬つたもの。

前方後圓……前面は方形、中央は細くくびれて瓢箪形となり、後方は圓形をなしてゐる。  
前後共盛土せられ、中央は稍低い。

上圓下方……下部を方形、上部を圓形に築き上げたもの。

339  
1140

昭和十一年十月十日印刷 昭和十一年十月二十日發行	
奈良縣立添上農學校 奈良縣立添上農學校 發行所	
奈良縣立添上農學校 奈良市油阪町三丁目 印刷所 電話七三四番	奈良縣立添上農學校 發行所 弓場史郎 印刷所 吉村印
奈良縣立添上農學校 發行所	



終

